

去る4月の下旬、毎年アメリカ合衆国フロリダ州のサラソタで行われているAssociation for Chemoreception Science (AChemS)に参加しました。AChemSは、現在私の研究している嗅覚分野で最も大きな学会であり、世界各国の研究者が嗅覚・味覚に関する最先端の研究成果を発表する場です。サラソタはリゾート地ですが、この学会は毎年同じ都市の同じホテルで開催されるため、参加者達はリゾート地どころではなく、皆「学会に参加しに来たぞ」という熱意に溢れている、ということに参加前に指導教官の東原先生に聞いていました。さて、実際は...

今回のAChemSは、昨年亡くなった故Larry Katz博士を偲ぶサテライトシンポジウムにより始まりました。彼が最後に携わった仕事である嗅覚分野から、ノーベル賞受賞者であるRichard Axel博士をはじめとした錚々たる方々が発表されました。長時間のフライトと時差ボケに加えて、外との気温差20℃のシンポジウム会場で(とにかく寒かった...), 肉体的には過酷な環境下でしたが、最先端の研究成果を著名な先生方の口から直接聞くことができ、とても興奮しました。そのためか、シンポジウム終了後はぐったりとしてしまい、早々に部屋へと引き上げました。

AChemSの一日は朝7時半から会場に並ぶベークリによって始まり

ます。発表時間は朝8時~12時と夜7時~11時の4時間ずつに設けられています。初日に誰もいないポスター会場を覗いた時、「広い会場だなあ、通路も広いなあ」という感想を持っていましたが、いざ発表が始まり、会場に足を運んでみると、会場にはたくさんの方が溢れかえっていました。そして、あちこちのポスターを二重三重に人が取り囲み、たくさんの質問が活発に飛び交っていました。会場はもはや全く広さを感じさせず、発表者と閲覧者の熱気に満ちたその空間に、私は少し気後れてしまいました。

ポスター発表の様子。Frank Zufall博士から質問を受けているところ

私のポスター発表の時間は最終日の前日の午前中でした。先に述べたようなポスター発表会場の様子を事前に知っていたため、前日までに英語を頭にたたき込み、しっかり準備したにもかかわらず、発表前夜は緊張して何度も目がさめてしまいました。しかし、発表時間が始まると緊張などしている暇はなく、論文で名前をよく見る研究者から学生までたくさんの人がポスターを見に来てくれたので、ほとんど4時間しゃべりっぱなしでした。彼らから「Good job!」と成果を直接ほめられたり、研究に関してディスカッションを求められることもあり、とても密度の濃い有意義な時間を過ごすことができました。このようなスタイルは、日本の学会ではなかなか経験することができないので、非常に貴重な体験であったと思います。

さて、ポスター発表が終わった開放感から、連日のプログラム終了後、ホテルのポートハウスで夜な夜な開催されているという、場外ディスカッション(?)に参加してみることにしました。日付が変わろうとしている時間であるにもかかわらず、100人は超えるであろうと思われる人々が飲み物を片手に熱く語り合っていました。ここでは、私と同年代、つまり、学生やポスドクの人達と知り合うことができ、お互いの研究についてや研究室のことなどの話をしました。もちろん彼らも今回のAChemSで素晴らしい発表をしており、彼らの考え方や、それらの研究成果の生まれた研究室の様子などを、生の声として聞くことができ、これはこれで大変刺激を受けました。結局、閉店まで多くの人が残っており、私たちもやっと部屋に引き上げたときは2時をまわっていました。

このようにして、あっという間にAChemSは終わりました。はじめに受けた先生からの忠告については、身をもって実感することができました。昼間に自由な時間があるとはいえ、早朝から夜遅くまで続く学会プログラムに加えて、連日深夜まで開催される場外ディスカッションのため、リゾートを満喫している余裕は全くありませんでした。しかし、このような刺激に満ちた体験をすることができ、大変満足しています。これからまた日々の研究をがんばり、皆が驚嘆するような成果を持って再度参加できるようなと思います。



サラソタ市内の公園にて



発表後、研究室の皆とシーフードレストランに行った

今回、学会に参加するに当たって、新領域学術研究奨励金より渡航費を援助していただきました。このような支援があることによって、学生が国際学会へ参加するチャンスも増えるのではないかと思います。この場を借りて御礼を申し上げます。

今回、学会に参加するに当たって、新領域学術研究奨励金より渡航費を援助していただきました。このような支援があることによって、学生が国際学会へ参加するチャンスも増えるのではないかと思います。この場を借りて御礼を申し上げます。

今回、学会に参加するに当たって、新領域学術研究奨励金より渡航費を援助していただきました。このような支援があることによって、学生が国際学会へ参加するチャンスも増えるのではないかと思います。この場を借りて御礼を申し上げます。



埜 紗智子  
先端生命科学専攻 博士3年

## Meeting Report AChemSに 参加して